



この町で、この地で笑って老いたい ~そのために今すべきこと~

【まち協だより】

令和6年11月号

電話(FAX) 82-0933

発行: 山上まちづくりの会事務局

【令和6年度 山上まちづくり懇談会 12月6日 18時30分開催】

●今年のテーマ「今後の日南病院のあり方について」

日南町のまちづくりの核の一つとなる日南病院の整備移転について、懇談します。

山上地域振興センター第3会議室が会場になります。当日は役場から町長・副町長・教育長・総務課長、地域づくり推進課長など、日南病院から浜田院長、高見名誉院長、福家管理者、看護部長、看護師長、北垣次長など13人以上が来館されます。たくさんのご参加をお待ちしています。



【山上文化祭】

11月4日山上文化祭が開催されました。天気にも恵まれ、楽しいひとときを過ごしました。作品を出展された皆様、準備に携わった皆様お疲れさまでした。ありがとうございました。

当日の役場総務課防災士渡辺さまの防災講演では、元旦の能登地震からちょうど一年を迎えることもあり、「大草山だより年末年始号」で防災の特集を組みます。山上と能登の地形は大変良く似ています。地震発生後、助けが来るまで3日間は自力で生き延びる覚悟と準備が必要です。文化祭に来場できなかった皆様にも情報をお届けしたいと思います。詳細は「大草山だより年末年始号」の防災特集をご覧ください。

【住民学習部】

冬の寄せ植え教室のご案内

12月22日日曜日10時から山上地域振興センターで冬恒例の寄せ植え教室を開催します。

参加費2000円、先着20人です。申し込みは山上地域振興センターTel82-0933までご連絡ください。



昨年の講習会の様子

【まち協事業参加者へのたったも行政ポイント付与について・500ポイント】

合同環境整備作業及び山上地域消防訓練のたったも行政ポイントは11月11日、山上文化祭のポイントは11月15日に付与されました。まちづくり懇談会(12月6日)の参加者にもポイントが付与されます。

探究心にかられて

広島へ 11 前編

故郷に帰って五年、県から模範校として表彰も受けましたが、岩雄は、何かもつとしなければならぬということがあるような気がしてなりません。戦いが続いている日本の様子や、貧しく苦しい生活をしている村の人の様子を見ると、これまでの学問と経験でこのまま山の中にうずもれていいのだろうか、これで間違いなく本当の教育ができるだろうか、いつも考えるようになりました。なんとかもつと学問をつみたいと思う気持ちが日に日に強くなっていきました。そこで県や郡の役所に願い出て、広島高等師範学校(今の広島大学)の附属校に教師として三年間勤めることができることになりました。

この時、岩雄には年とつた両親と五人の子どもがいました。両親ともいろいろ話し合って、二人の子どもは両親にあずけて、次男と小さい二人の子どもと妻のマスをつれて広島に行くことにしました。家族が別れ別れになってまで頑張るといふ強い決意での広島行きでした。

明治三十九年四月

子等よ子等この下蔭かげに来て遊べ

花も実もある人となるまで

という歌を結びつけたしだれ桜を、学校の玄関のわきに植え、歩いて中国山脈をこえて、山陽本線の福山から汽車に乗り広島にむかって旅立っていきました。

岩雄が特に勉強したいと願っていた倫理哲学という学問の担当は鳥取出身の西晋一郎先生にしんいちろう、教育学の担当は後に京都大学の総長になれる小西重直先生こにしげなおでした。

岩雄は尋常一年生を担任することになりましたが、放課後は師範学校の講義をきくことを許されました。西先生や小西先生をはじめ多くの優れた先生方に出会いたくさんのことを教えられました。特に小西重直先生との出会いは、後に岩雄が京都大学に学ぶきっかけとなるものでした。

家族が山上と広島に分かれて、二つの場所で生活するのですから、余分な費用もいり、また本代などの研究費も必要で、暮らしは苦しかったのですが、望んでいた勉強ができるので、岩雄にとっては、この上ないほどの素晴らしい毎日を過ごしました。

岩雄は、学校では子ども達と一緒になんでもすることを心にきめていましたので、掃除などもよくしました。家では、家のことはなんにもしない人でした。時をおしんで、研究をまとめたり、読書したりしていました。



心の中に、「自分は家のことはなんにもしなくても、マスがすべてのことをしてくれる。」と、そんな気持ちがあったようです。マスのほうでもよく心得ていて、家のことは何から何まですべて一人で片付けていました。しかし、山上にいた時には、両親がいて、なにかと手伝って助けてくれましたが、広島に来てからは、マス一人でしなければなりません。